

## 当院における ABC 検診結果についての検討

中川 友里、松島 由美、加藤 純子、山田 佐知子、立田 浩  
(大阪府済生会茨木病院 健診科)

### [目的]

胃癌 ABC 検診の結果について、同時に行った検診結果をもとに、年齢、高血糖、脂質異常との関連について検討した。[方法]2014年4月から2017年3月までに当院でABC検診を受診した306人について検討した。空腹時110mg/dl以上またはHbA1c6.5%以上を高血糖群とした。また、LDL-C140以上を脂質異常群とした。

### [結果]

検診受診者の内訳は、40歳台/50歳台/60歳台/70歳台が各々104人/54人/96人/52人であった。ABC検診の結果はA67.3%B18.0%C13.7%D1.0%であった。Hp抗体陽性率は全体で32.7%、40歳台/50歳台/60歳台/70歳台は各々13.5%/25.9%/45.8%/53.8%であった。高血糖群は31例でHp抗体陽性率51.6%、血糖正常群は270例で、31.1%であった。ABC判定では、高血糖群A48.4%B29.0%C19.4%D3.2%、血糖正常群A68.9%B17.0%C13.3%D0.7%であった。脂質異常群は111人でHp抗体陽性率43.2%、脂質正常群では26.7%であった。判定では、脂質異常群A56.8%B19.8%C20.7%D2.7%、脂質正常群A73.3%B16.9%C9.7%D0%であった。追跡可能であった265例中C群で1例の進行胃癌、D群で1例の早期胃癌が診断された。

### [考察]

Hp感染及び胃癌と、高血糖や肥満とが相関する報告があり、今回の検討でも高血糖群でHp抗体陽性率が高く、Hp抗体陽性であるB群とC群の比較では、高血糖群の方がC群の割合が多い傾向が見られた。また、脂質異常群も正常群に比してHp抗体陽性率が高く、脂質異常群でC群の割合多い傾向が見られた。[結論]Hp抗体陽性率は加齢とともに増加を認めた。高血糖群、脂質異常群は正常群に比べHp感染率は高く、萎縮の進展例も多い傾向が見られた。